

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071900791
法人名	(有) 西日本在宅介護センター
事業所名	グループホーム見立
所在地	826-0041 福岡県田川市大字弓削田3251番地の1 (電話) 0947-42-8817

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成 20年 6月 7日	評価確定日	平成20年7月17日

## 【情報提供項目より】(平成 20 年 5 月 23 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 5 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 5.7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り 2 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	無し		
保証金の有無(入居一時金含)	無し	有りの場合償却の有無	有/無し
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 無料 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要(5月23日現在)

登録人数	8	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低 71 歳	最高	102 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 田中医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改造型グループホーム見立は開設6年目になり、入居者の入れ替わりや入居者の高齢化、心身の重度化等の課題を抱えながらも入居者や家族が安心して生活できるようにと、日々のケアに取り組んでいる。昨今、協力医療機関との連携にて看取りを行ったが、本人がどのような終末期を過ごしたいかの意向確認書を整備し、家族との十分な話し合いで穏やかな看取りを行っている。その中で職員は、緊張した毎日を苦にせずお世話させていただく事を誇りや喜びに変え、そのことが入居者に伝わる様に関わる事がホームの日常だと思い取り組んでいる。今回、ホームの安全対策として2階昇降口やホーム外周柵の補強で転落防止を図ったり、トイレの鍵を工夫する等、ホーム独自で改善できることを実践しつつ、隔月に開催する運営推進会議を通じて、防犯や非常災害訓練の協力をお願いする等、地域を巻き込んだ地域密着型サービスとしての実践が期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者等は外部評価の意義を理解し、前回の外部評価結果に沿って契約書への苦情相談窓口の明記、虐待防止の研修の取り組みがされている。また、作成した年間研修計画に沿って研修会に職員を派遣する等、改善に向け積極的に取り組みや改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者等は自己評価の意義を理解し、改善に向け積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	隔月に適切な参加者で運営推進会議を開催し、ホーム行事等を報告している。会議での意見や改善点などは、サービスの向上に活かせるよう報告書が整備されている。運営推進会議を通じて、市担当者から入居者の郵便物の配送や職員の勉強会のアドバイスを受けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者の状況は訪問時や月末の請求書送付時に知らせているが、緊急時は電話で連絡し、協力を頂いている。職員2名で金銭を管理・確認し、家族に確認印をいただいている。定期健康診断は主治医に要請している。管理者は成年後見制度活用の入居者もいることから、制度等を学ぶ機会をもち、職員の研修参加に配慮したり、伝達講習で職員に周知している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同法人運営のデイサービス行事である春・秋の花見には、地域老人会と共に入居者も参加しているが、老人会や地域行事への参加は出来ていない。近所の方と日頃挨拶を交わすなど交流があるので、無断外出時には問い合わせがあり協力的である。今後は、自治会や隣組へ加入し、校区の小学生との交流を持ちたいと考えているため、地域との交流が期待される。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を重要事項説明書等に明記し、見え易い場所に掲示している。職員は理念を自分の言葉で語る事ができる。地域密着型サービスとして家庭的な環境の下でのケアを提供しながら、運営推進会議を通じて地域との関わりも持っている。今回、地域密着型サービスとしてパンフレットを作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を午前・午後の申し送り時に話すことで、介護計画を立てる時には実践に向けて取り組めるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人運営のデイサービス行事である春・秋の花見には、地域老人会と共に入居者も参加しているが、老人会や地域行事への参加はない。近所の方と日頃挨拶を交わすなど交流があるので、無断外出時には問い合わせがあり協力的である。	○	今後は、自治会や隣組へ加入し、ホームで開催する行事を案内するなど、地域との交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や常勤職員は自己・外部評価の意義を理解しているので、前回の外部評価結果を踏まえて改善に向けて積極的に取り組み、改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に適切な参加者で運営推進会議を開催し、ホーム行事等を報告している。会議での意見や改善点などは、サービスの向上に活かせるよう報告書が整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者から入居者の郵便物の配送や職員の勉強会のアドバイスを受けている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を理解している。職員の研修参加に配慮したり、伝達講習で職員に周知している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況は訪問時や月末の請求書送付時に知らせているが、緊急時は電話で連絡し、協力を頂いている。職員2名で金銭を管理・確認し、家族に了承印をいただいている。定期健康診断は主治医に要請している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関等の苦情・相談窓口を明記し、玄関の横には意見箱が置かれている。家族会はないが、運営推進会議での参加家族の活発な意見は、ホーム運営の取り組みに活かされている。家族の来訪時には、何でも言っただけのような雰囲気づくりに留意している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、状況に応じて入居者の食事介助に関わることで馴染みの関係作りをしている。離職による入居者のダメージを防ぐ為に、職員のストレス解消や不満などを聴き改善するように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	定年70歳制を取り入れ、介護に意欲のある場合は雇用している。雇用契約書を取り交わし、機密等の守秘義務を明記している。職員の定期健康診断も支援し、休憩時間も確保している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	管理者は年1回人権研修会に参加し、研修内容を申し送り時や会議を通じて職員に伝達している。高齢者虐待マニュアルやパンフレットを掲示して、人権啓発に取り組んでいる。運営規程には、身体拘束に対する取り決めに明記している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に福岡県グループホーム協議会Fブロックの研修参加を組み込んでいる。研修内容は会議や申し送り時に伝達・報告している。スーパーバイザーはいないが管理者や運営者が相談に応じている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会Fブロックに加入し、研修会の際に他事業者と交流や意見交換をしている。また、他の同業者の行事等に参加することにより、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人のデイサービス利用から入居に至ることが多いため、馴染みの関係ができています。他の施設や病院から直接入居になる場合は、生活状況・性格・嗜好・してはいけない事等を詳細にアセスメントし、家族の支援を受けて早期にホームの生活に慣れるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が自分の不安や苦しみを表現できずに大声をあげることがあっても、職員に対して「ありがとう。すまんねえ」等の声かけがあったり、笑顔を向けられることで職員は喜びを見出している。また、食材や献立にアドバイスをもらったりして共に支えあう暮らしを築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不満がある方には話を聴き、どうしたら満足できるかを考え対策を練っている。毎日の意向は朝食時から本人に聴くことにより対応しているが、本人の意向や職歴、生活歴の記載が不十分である。	○	東京センター方式を活用して職歴や趣味等の情報を把握し、第3表(週間予定表)を作成してはどうかでしょうか。把握した情報をサービス内容に活かすことで、より入居者の意向に沿ったケアの提供をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向をふまえ、管理者・介護計画作成担当者が中心となって介護計画を検討しているが、話し合い等の記録がない。また、介護計画書に家族の意向の記載はあるが、本人の意向(希望)が明記されていない。	○	把握した入居者の意向は介護計画書への明記が求められる。さらに、介護計画書第1・2・3表への記載は内容の連動が求められる。また、介護計画を作成する際は職員間の話し合いが重要なので、担当者会議録等の整備をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、入居者の状態変化や状況、要望等をモニタリングして介護計画に反映させている。利用者の状態が大きく変化した場合は、介護計画の検討や見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	相談を受けたら出来るだけ話を聴き、要望に応じるようにしている。在宅に衣類を取りに行くことや家族の顔を見に行くこと、又通院の支援などを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から2週に1回往診があるが、入居者の希望する医療機関受診も支援している。医療受診や看護内容を記録し、ファイルを整備している。受診状況は緊急時はその都度、その他は月末にと随時家族に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方などについては主治医と直接話をする事で連携しながら支援している。本人がどのような終末期を過ごしたいかの意向確認書が整備され、特に家族とは充分に話し合いをしている。	○	終末期に対する対応の指針を定め、全職員と方針の統一をお願いしたい。主治医や家族との話し合いの記録を整備していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	パンフレットを活用し、プライバシーの保護や人権の尊重について学習している。優しい言葉掛けに努めている。サービス規程や運営規程・契約書に守秘義務などが明記されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度な入居者が多く、何事にも時間がかかるが見守りながら誘導したり、本人の希望を優先している。テーブルでの食事を拒否されても、居室では完食されたりするので、言葉で表現できなくても表情を見ながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状況に応じて、買い物や調理への参加を促したり、献立や調理方法のアドバイスをもらう等意欲を引き出せるように取り組んでいる。職員は伴食はしていないが、楽しく会話しながら食事介助をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・金曜日の入居者の好きな時間に入浴を支援しているが、拒否がある場合は本人の希望に合わせ他の曜日やシャワー浴などを勧めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の心身状況に応じて、歌を歌ったり、中庭でおやつを摂る等している。庭の草木の成長を楽しみにし「きれいね・・・」等と畑作業を見学している。誕生会ではケーキづくりを手伝い、喜んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画に基づき、花見などに全員でかけている。家族と定期的に外出する入居者もいるが、個別の外出はなかなかないので、ホーム横の小川で蛍見をしたり、散歩をして外出に興味を持てるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	18:30～7:00までは防犯の為玄関を施錠している。無断外出には近所の方に声掛けをして頂いている。昼間の玄関の出入りにはセンサーを利用しているが、職員は見守りや気配りしながら、入居者の自由な暮らしを支えている。	○	運営推進会議を活用して、無断外出やその他の事故に対する見守りや協力体制を地域の広い範囲に広げたり、警察署への届出、協力要請も検討していただきたい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練計画は実施していないが、運営推進会議を通じて地域の方に訓練時の協力をお願いしている。非常災害用備蓄は、整備や点検をしている。	○	消防署や自治会の協力を得ながら、早期の避難訓練を実施していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1300～1600kカロリー(オヤツ含めて)を摂取している。ジュースや牛乳を使った飲み物で水分摂取を支援したり、便秘がちな入居者には牛乳摂取を勧めたり、鉄剤服用の入居者にはお茶を控えるなどの配慮をしている。体重は月2回測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホームのあちこちに生花が生けてあり、中庭のながめは心を落ち着かせ、季節の移ろいを感じることができる。騒音がなく採光や防臭にも配慮されている。トイレの手すりに黒いテープを貼る等の工夫があり、白内障の入居者へのさりげない心配りがある。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のほとんどが畳敷きで落ち着いた雰囲気だが、カーペットを敷いている居室もあり、一人ひとりの好みや状況に合わせた居室作りをしている。家族の写真や使い慣れた家具、身の回り品を置き居心地よく過ごせるよう配慮されている。		